

2021年度（2022年3月期） 第2四半期決算説明会 連結

株式会社フコク(東証第一部:5185)
2021年11月25日

ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます



Agenda

1. 決算のポイント
2. 2022年3月期第2四半期実績
3. 2022年3月期通期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. プライム市場上場に向けて

1. 決算のポイント



1. 決算のポイント

2022年3月期第2四半期実績

当期は、終盤に差し掛かり半導体不足などに起因する減産や原材料費・物流費増の影響が顕著化したものの、新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せたことによる受注の順調な回復と合理化努力などにより、増収・増益となりました。

2022年3月期通期予想

半導体不足長期化に伴う自動車生産減や、原材料・物流費の高騰など外部環境が不透明な中、あらゆる採算改善努力を積み重ね、売上高は730億円、営業利益は37億円の公表値を据え置きます。引き続き体質改善に取り組み、損益分岐点の引き下げを図ります。

配当

中間配当は、当初計画の20円から業績改善に伴う配当予想修正を2回行い、29円に増配しました。期末配当予想は、外部環境の改善の兆しが見えない中でも改善努力を継続し、当初計画20円を据え置きとし、通期では前年比27円増の49円を計画しています。

2. 2022年3月期第2四半期実績



2. 2022年3月期第2四半期実績

業績概要（連結）

（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期		
	第2四半期実績	第2四半期実績	前年増減額	前年増減率
売上高	28,408	※ 36,650	8,241	29.0%
営業利益 (売上高対営業利益率)	△899 (-)	1,820 (5.0%)	2,720 (-)	-
経常利益 (売上高対経常利益率)	△525 (-)	2,125 (5.8%)	2,650 (-)	-
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	△451 (-)	1,611 (4.4%)	2,062 (-)	-

※ 第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。

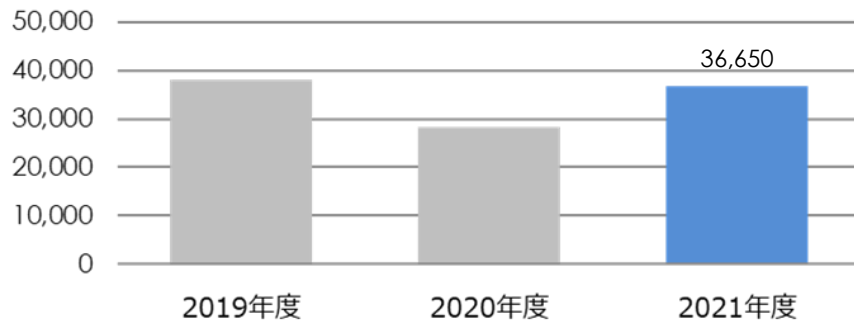
第1四半期の受注好調により増収増益

2. 2022年3月期第2四半期実績

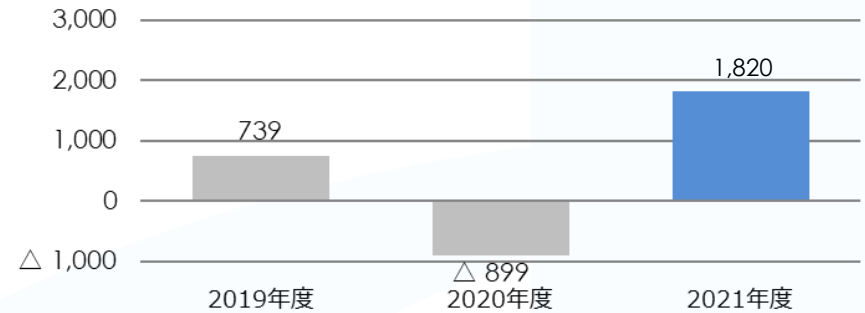
経営実績推移 (連結・半期)

(単位：百万円)

売上高

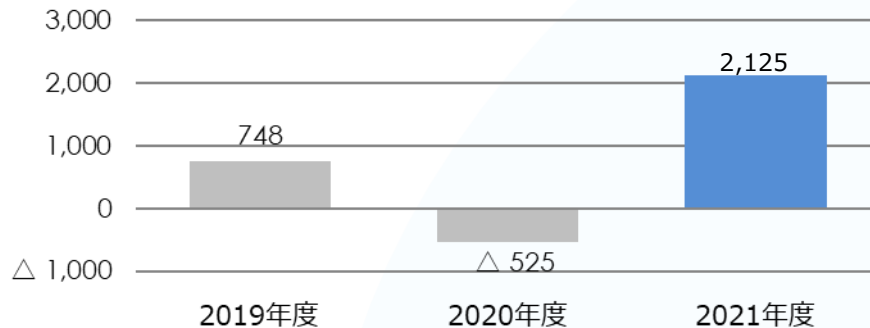


営業利益

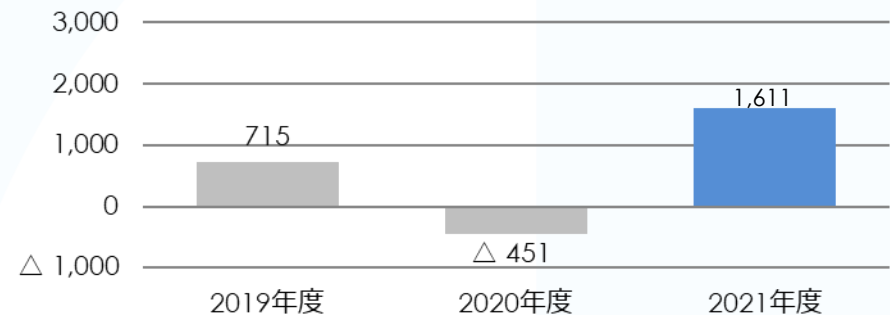


※ 22年3月期第1四半期より、収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。

経常利益



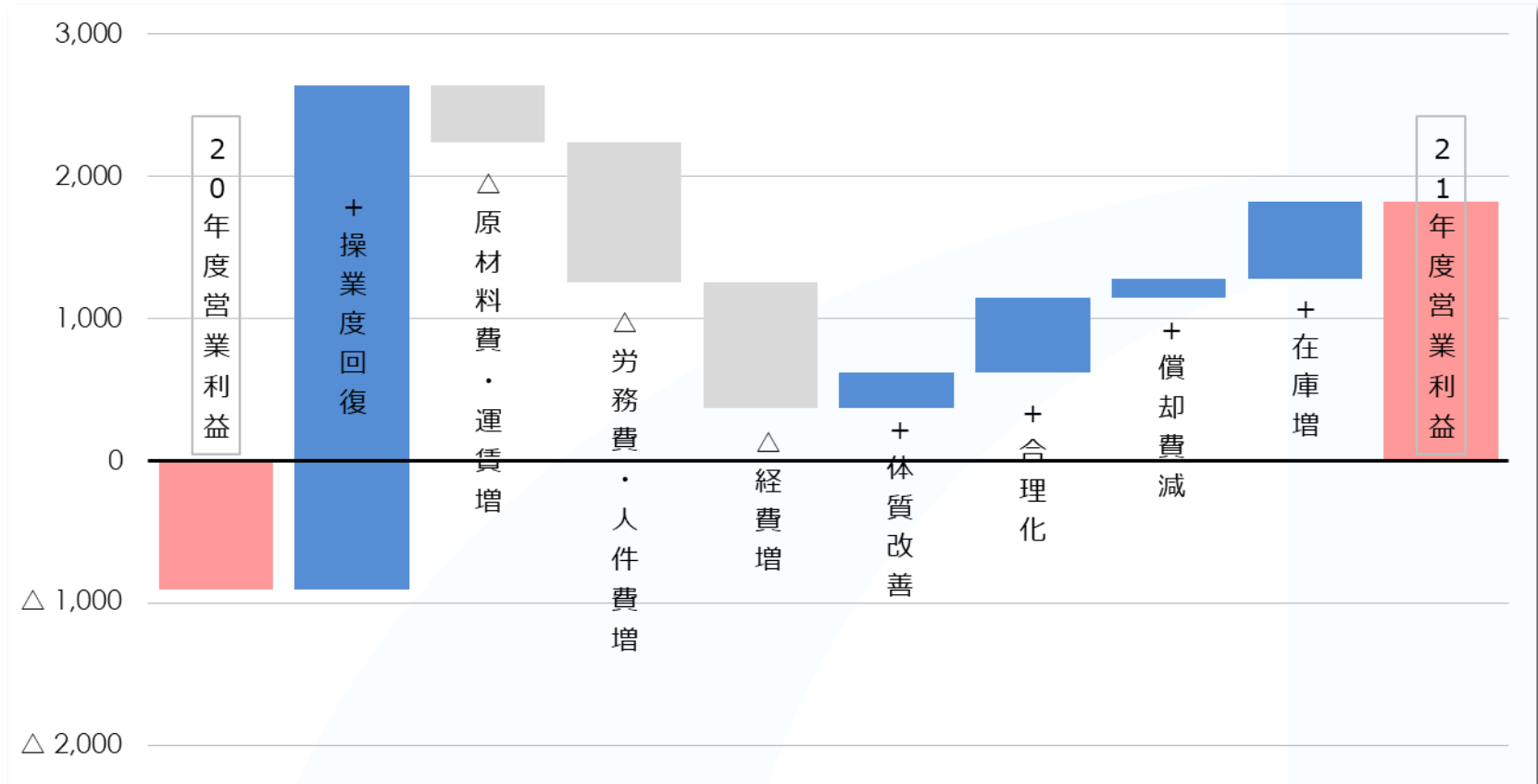
当期純利益



2. 2021年3月期第2四半期実績

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2. 2021年9月期実績概要

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

	2021年3月期 実績	2021年9月期 実績	前年増減額
現金及び預金	8,992	9,743	750
受取債権	18,713	17,426	△ 1,286
棚卸資産	7,251	8,489	1,238
その他流動資産	1,261	1,308	47
流動資産計	36,218	36,968	749
有形固定資産	25,184	25,117	△ 66
その他固定資産	2,414	2,500	85
固定資産計	27,599	27,617	18
資産計	63,817	64,586	768
借入金	12,089	10,481	△ 1,608
支払債務	9,441	9,947	505
その他流動固定負債	9,965	9,711	△ 254
負債計	31,496	30,139	△ 1,356
株主資本計	30,348	31,608	1,259
非支配持分	2,235	2,229	△ 5
その他	△ 262	608	871
純資産計	32,321	34,446	2,125
負債・純資産計	63,817	64,586	768

- 収益改善で株主資本、現金及び預金が増加、一方で借入金は返済により減少

	2020年9月期 実績	2021年9月期 実績
税前利益	△ 542	2,134
減価償却費	2,111	2,066
売上債権の増(△)減(+)	4,555	1,767
たな卸資産の増(△)減(+)	△ 397	△ 1,027
仕入債務の増(+)減(△)	△ 2,760	△ 58
その他	△ 983	△ 919
営業活動によるC F	1,982	3,962
有形固定資産の取得	△ 2,241	△ 1,301
その他	71	△ 31
投資活動によるC F	△ 2,170	△ 1,332
借入れによる収入	2,451	49
借入金の返済による支出	△ 2,144	△ 1,784
その他	△ 263	△ 464
財務活動によるC F	42	△ 2,200
フリー・キャッシュ・フロー	△ 187	2,629

- 改善活動に取り組んだ結果、フリー・キャッシュ・フローが改善
- 収益改善で借入金の返済が進む

3. 2022年3月期通期業績予想



3. 2022年3月期通期業績予想

業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2021年3月期 実績	2022年3月期		
		予想	前年増減額	前年増減率
売上高	63,214	※ 73,000	+9,786	+15.5%
営業利益 (売上高対営業利益率)	693 (1.1%)	3,720 (5.0%)	+3,027 (+3.9pp)	+436.8%
経常利益 (売上高対経常利益率)	1,435 (2.3%)	3,900 (5.3%)	+2,465 (+3.0pp)	+171.8%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,254 (2.0%)	2,450 (3.3%)	+1,196 (+1.3pp)	+95.4%

※ 第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しております。

※ pp=パーセンテージポイント

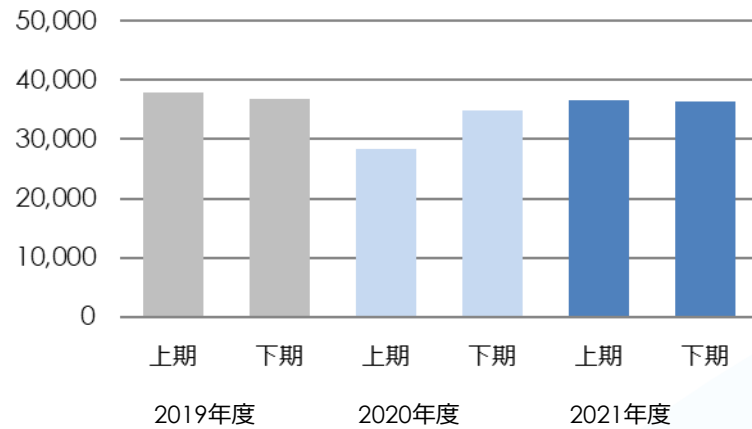
売上回復に加え、合理化・体質改善の効果により増益を見込む

3. 2022年3月期業績予想

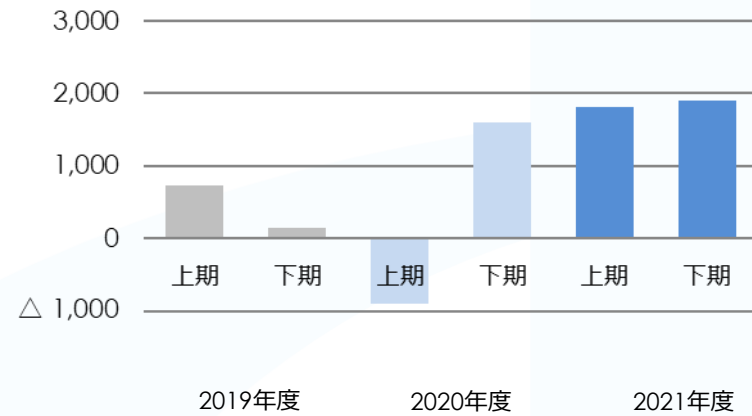
経営予想推移 (連結)

(単位：百万円)

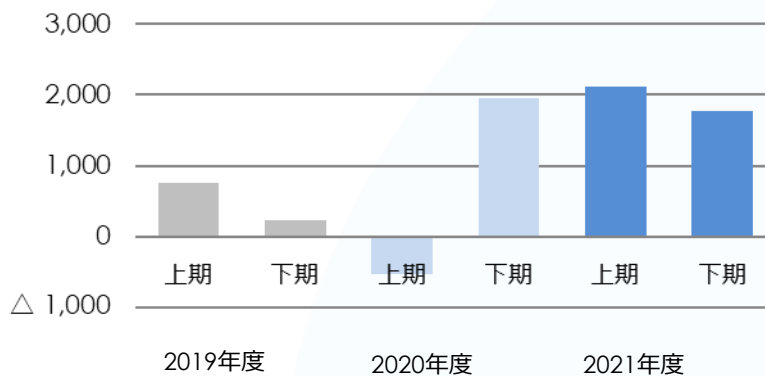
売上高



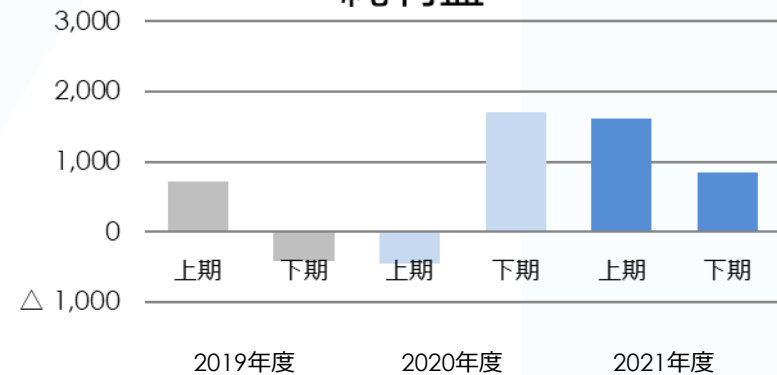
営業利益



経常利益



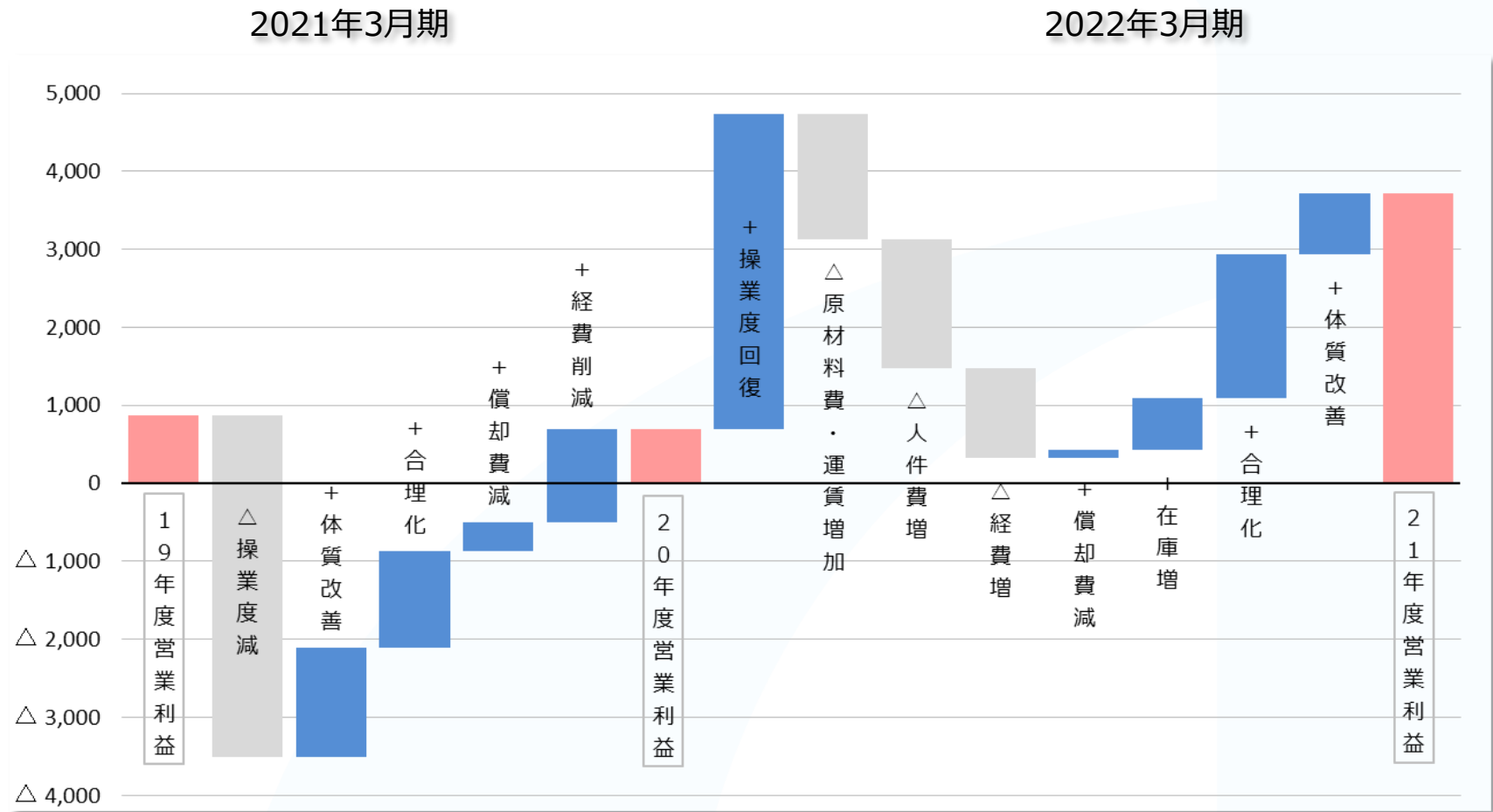
純利益



3. 2022年3月期業績予想

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）



4. セグメント別・地域別の状況



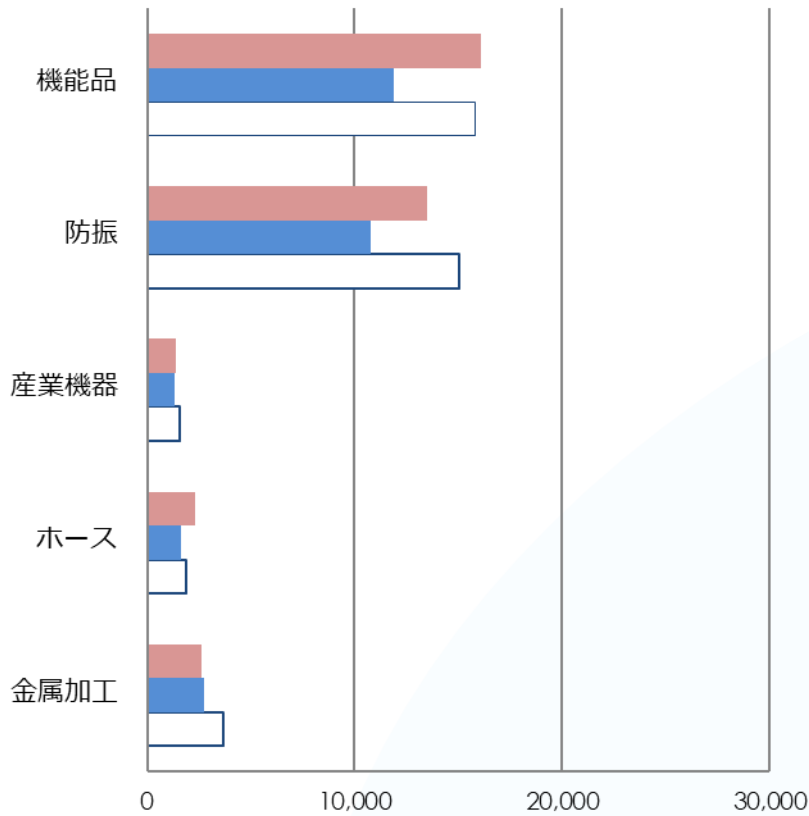
4. セグメント別・地域別の状況 第2四半期

セグメント別

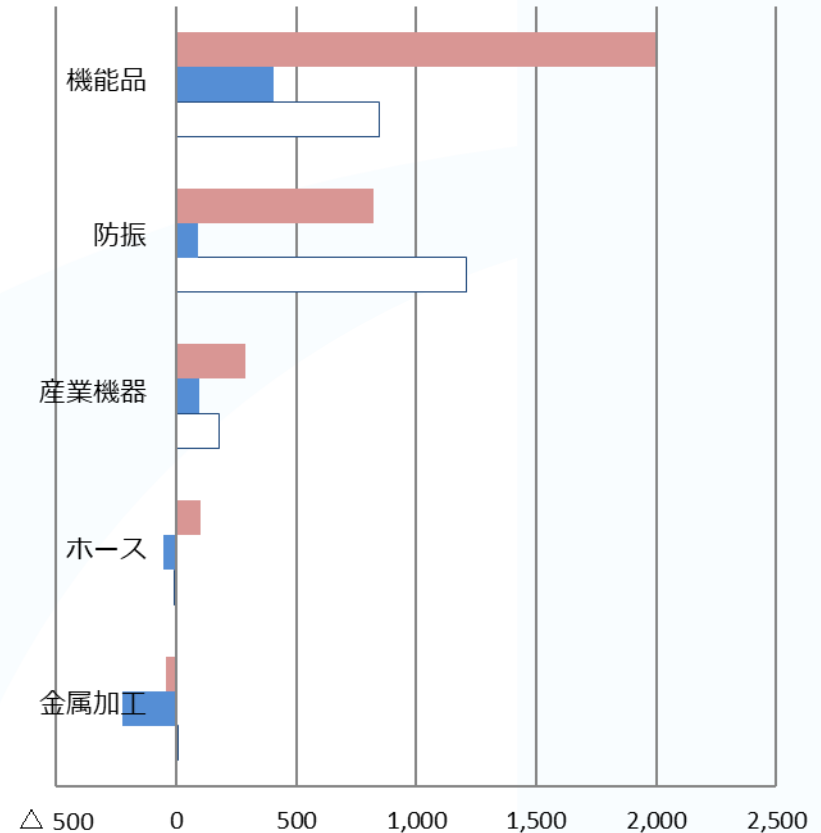
■ 2022年3月期
■ 2021年3月期
 2020年3月期

(単位：百万円)
※ 連結調整考慮前

売上高



営業利益

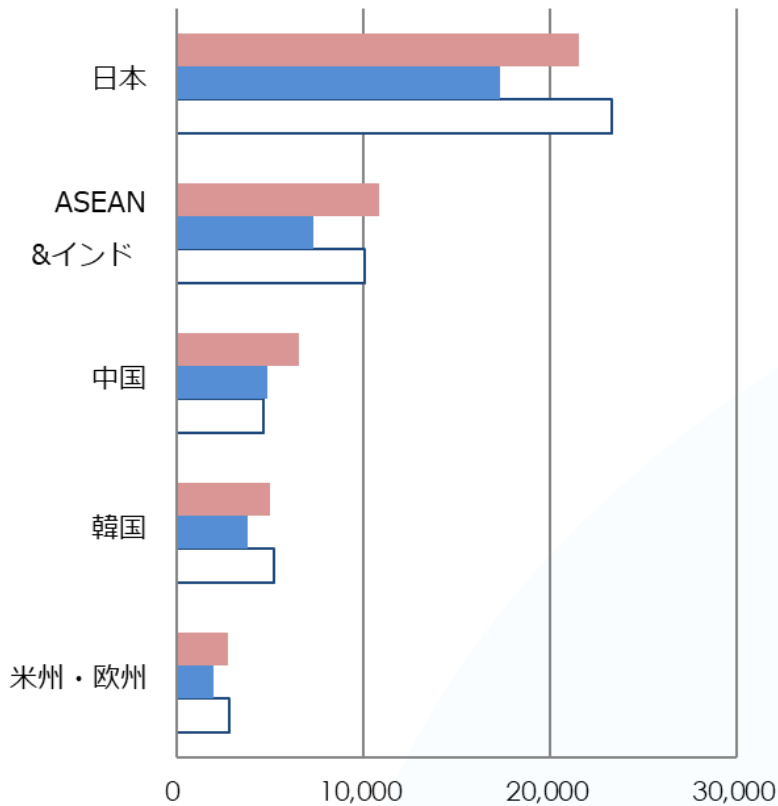


上期は全事業において収益改善、金属加工は上期赤字・下期に巻き返しを図る

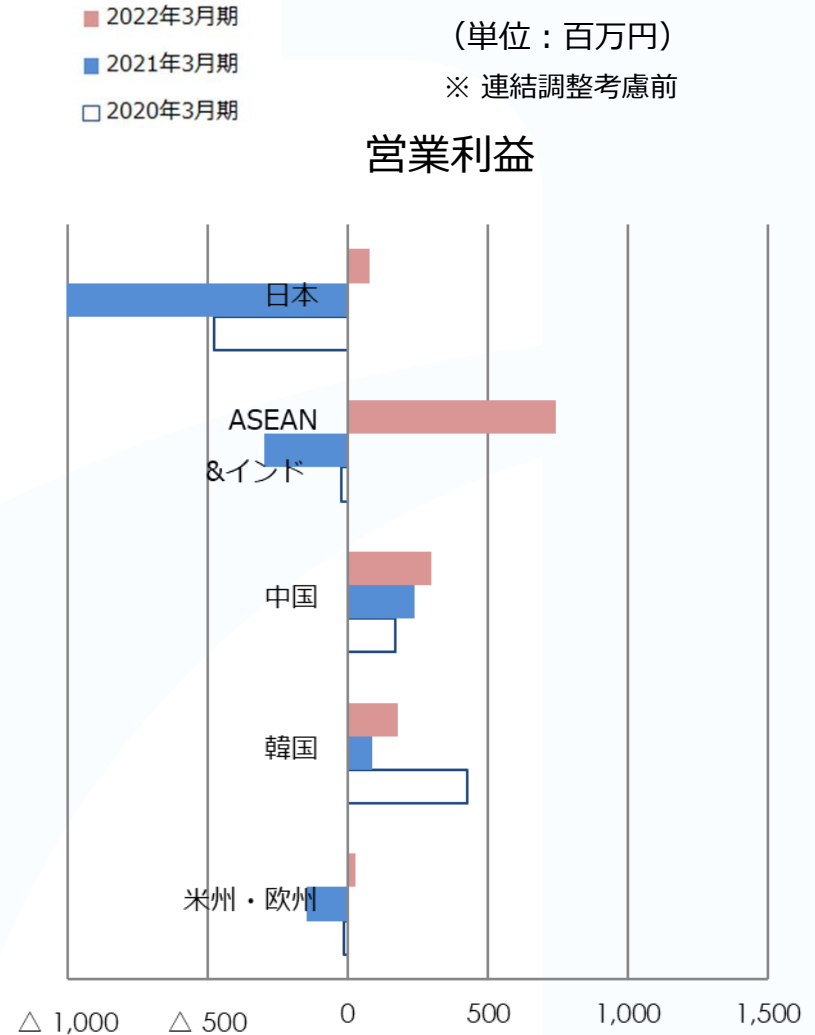
4. セグメント別・地域別の状況 第2四半期

地域別

売上高



営業利益



ASEANが牽引 全ての地域で黒字化を目指す

5. 株主還元



5. 株主還元

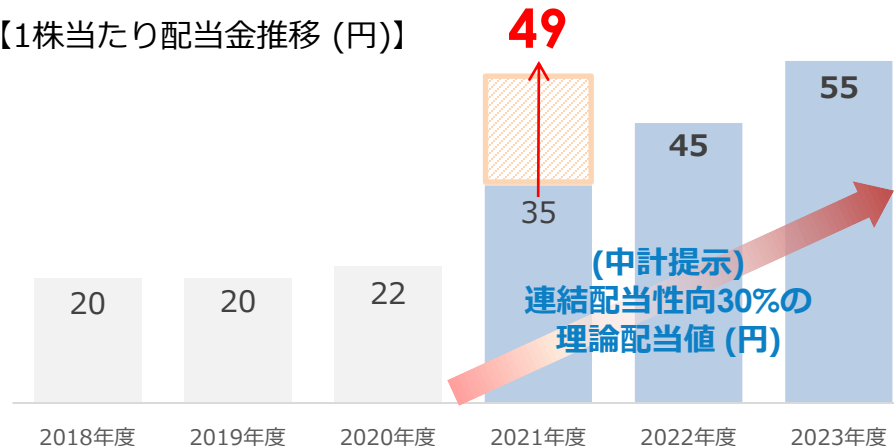
配当政策の基本方針

- **連結配当性向30%**を目安に安定配当を継続。
 (1株当たり年間20円を下限※) ※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

1株当たり配当金について (2022年3月期)

- **第2四半期末 (実績)**
 - ・ 当初計画20円に対し、業績改善に伴う配当予想修正を2回行い**29円**にて着地(20円 ⇒ 25円 ⇒ 29円)
- **期末 (予想)**
 - ・ 先行き懸念 (顧客先であるカーメーカー各社の半導体不足による生産調整、原材料や輸送費高騰等)があるものの、全社一丸となった利益確保に努めるため、当初計画20円を据え置き。通期では前年差27円増の**49円**を計画。

【1株当たり配当金推移 (円)】



6. プライム市場上場に向けて



6. プライム市場上場に向けて

当社の適合状況と取組み方針

- 当社の適合状況 (2021年7月9日/東証通知)
 - ・「流通株式時価総額」が約93億円、上場維持基準の100億円の僅かに届かず
- 東証通知を受けた当社の取組み方針開示 (2021年7月14日)
 - ・ **プライム市場への上場 (上場維持基準の達成)を早期に目指すことを宣言済**
 - 2021年2月に公表した中期経営計画の確実な達成
 - 連結配当性向30%を目安とした株主還元の継続的实施
 - 当社の成長戦略を始めとした様々な情報を積極開示

取組み方針に基づく進捗

- 中期経営計画 (深化と新化)
 - ・ 中国エリア本部設立。中国エリアにおける迅速な事業運営を推進
 - ・ 上海富国有限公司にテクニカルセンター設置。中国国内顧客との共同開発を拡大
 - ・ 大手カーメーカーより電動化対応製品を受注
- 積極的なIR活動推進
 - ・ 情報開示の充実
 - 企業ホームページ全面刷新 (2021年4月:日本語サイト/同年6月:英語サイト)
 - 英文開示の開始 (決算短信、株主総会招集通知、中期経営計画)
 - ・ 機関投資家との対話強化
 - 決算説明会の継続開催 (オンデマンド型配信含む)
 - 1 on 1ミーティング等を通じたコミュニケーション強化

「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」は本年12月迄に開示



ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ
今までに無い価値を提案していきます

注意事項

◆本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

◆本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

Appendix



1. その他指標

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)

